

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0272701277		
法人名	倉石ハーネス株式会社 名川事業所		
事業所名	グループホームながわ荘		
所在地	三戸郡南部町大字上名久井字伊勢堂下21-7		
自己評価作成日	平成22年7月12日	評価結果市町村受理日	平成23年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.aokaigojyohu.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272701277&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年12月17日

(ユニット名 A棟)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりに応じた個別的な対応を行う事をモットーとし、具体的には休日など利用者様の希望を聞きとり出来る限り要望に応じた外出の支援(外食や馴染みの美容室等)などを行っております。また、朝は毎日A棟にてA棟B棟の利用者が一緒にラジオ体操を実施したり、午後はB棟にA棟の利用者が出向きB棟の利用者と歌会やトランプを一緒に楽しめたりと、利用者同士の交流も盛んです。毎月行事をA棟とB棟の職員が1名ずつ担当し職員間の連携を図っている他、ケアプラン実施表を取り入れ、経験の浅い職員でも解り易く継続しやすい様に工夫しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全ての職員が関わり作り上げた理念をはじめ、倫理や各種マニュアルを綴ったファイルを各職員に渡していつでも確認できる体制を整えている。また、各ユニット毎に毎月目標を定めサービス向上に努めている。町内会の班長を務めており、利用者と職員が共に回覧板を届けるなど地域との絆を深める取り組みを行っている。
各居室の壁に簡易式のライトが設置されており、避難誘導時に職員が利用者の安否確認を素早く行う工夫がなされ安全管理に対する意識が高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『あなたも私も笑顔で楽しく暮らします』『なじみのある町でふれあいを目指します』という事業所独自の理念を作成し全職員で日々のケアや地域交流に反映させております。	全職員で意見を出し合い、理念を作り上げホールに掲示している。また、理念や倫理、マニュアル等を綴ったファイルを各職員に配布し、いつでも内容の確認ができるようにしている。さらに各ユニット毎に毎月目標を定め、サービス提供に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に気軽に立ち寄って頂けるよう働きかけを行い、地域の班長になる等交流を図る為の取り組みを行っており、利用者様と地域の社会資源との繋がりを大切にしております。	町内会の班長を務め、職員と利用者が共に回覧板を届けたり、地域清掃を行う等地域住民との繋がりを深めている。地域の方から花や漬物を届けてもらえる事もある。また、歌謡ショー等ボランティアを積極的に受け入れ、地域の社会資源との関わりが豊富である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の見学やボランティア、認知症介護実践者研修の実習生等の受け入れや、職員は認知症サポーター講習を受講する等事業所の専門性を活かす取り組みを行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価や外部評価の結果について報告、説明を行っており、改善策等についての意見交換を行う等サービスの向上に向けた取り組みを行っております。また、委員の方の意見を引き出すための働きかけを行っております。	運営推進会議では2ヶ月に1回開催し、数字や文面だけでなく目で見て分かるよう写真も取り入れた報告を心掛けています。また、メンバーから災害対策として地域の消防団との交流の提案があり、関係作りに努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やそれ以外の場でも市町村の担当者との情報交換や報告等の機会を保ち、市町村との連携を図っております。	運営推進会議には、毎回町の職員が参加している。会議の際に自己・外部評価結果の報告や入居に関する情報交換を行い、災害対策等、課題解決について連携を図っている。	

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束に関する研修を行ったり、身体拘束ゼロの手引きを参照する等職員は身体拘束となる具体的な行為を理解し日々のケアの中で日常的に出入りする場所を施錠しない等の基本的な取り組みを行っております。	職員会議でマニュアルの読み合わせや外部研修の伝達講習により身体拘束について理解を深めている。居室や玄関は施錠せず、利用者の意向に沿い、職員が付き添う等、利用者の気持ちが落ち着くよう見守り支援している。また、やむを得ず身体拘束を行う場合は、理由と経過を記録している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について外部、または内部研修を行い、虐待に関する具体的な行為の理解を深めるための取り組みや、発見した場合の対応と報告の流れについて理解しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度についての研修に参加し、内容を全職員に内部研修等でフィードバックする等理解を深めるための取り組みを行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約から締結までの全てにおいて利用者様やご家族様にとって分かりやすく、丁寧で十分な説明を行い、説明と同意・納得を図っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内での苦情受付担当者や外部の苦情受付窓口等を施設内に明示しており、また、気軽にご意見やご要望等を利用者様やご家族様が表せる環境作りを行い、出された意見等をサービスの向上等に反映させております。	運営推進会議への参加を呼びかけたり、面会時には何でも話してもらえるように声がけしている。毎月、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理状況、家族向け広報誌で家族に報告している。意見や苦情は職員会議で話し合い、対応方法や苦情解決に向けて取り組んでいる。	

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は上意下達の運営ではなく職員の提案や意見を会議の場等で聞く機会を設け、それらの意見を反映させ円滑な運営を図っております。	業務改善、ケアの検討の際、職員全員が意見を出せるようにしている。また、自己評価は全職員で取り組み、意義や目的を理解している。年2回、管理者は個人面談を通して職員の悩みや要望等の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の保有資格を活かして配置しており、やりがいや向上心が持てる職場環境となるよう配慮されております。また、就業規則が作成されており、条件等も整備されております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成しており、職員の経験に応じた研修に参加し研修後は復命書をもとに他の職員への伝達研修、またはOJTによる周知を図っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会に加入しており、地域の他事業所との合同勉強会や行事や訪問に参加する等交流を図る機会があり、それらを通じサービスの向上に活かしております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する段階でご本人の思いや、ニーズの把握のため、認知症ケアマネジメントセンター方式を活用する等して早期に信頼関係を築けるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係を築き上げることを念頭に置き、ご家族様の不安や要望に対して受容的に受け止める努力を行っております。		

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の立場に立って今必要とされる支援を見極め、ご本人やご家族を取り巻く社会資源を活用し、早期に対応できることは柔軟に対応するように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が共に、日々の生活を過ごしていけるように職員は共感的立場で信頼関係を築いております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族様の関係が途切れないように日常の様子(健康面・余暇の過ごし方・ケアプランの実施状況)について毎月書面やお電話等での報告を実施しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様がこれまでに大切にしてきた馴染みの人や場所(行き付けの床屋等)をセンター方式で把握し、馴染みの人に会うため、または気軽に出かけられるような支援に努めております。	利用者と日常的な関わりから、友人や行きたい場所等の把握に努めている。電話を取りつぐ等、これまでの関係の継続を大切にしている。また、それぞれ地元のお祭りに連れて行ったり、馴染みの美容院や床屋、お墓参り等柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の仲の善し悪し等の人間関係を把握し、孤立することのないように配慮しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であっても必要に応じてご家族の相談等に応じるように努めております。		

自 己 外 部 部 部		項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議等で利用者様の思いや願いについて把握しており、利用者様の視点に立って検討しております。	日常的に利用者の表情や会話から思いや希望を引き出し、必要に応じて家族や関係者からも情報収集している。また、職員の気付きや意見も取り入れながら利用者の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活歴やライフスタイル、地域との関わり等プライバシーに配慮しご家族様や関係者の方から情報収集を行い、センター方式を活用する等し把握に努めております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様個々の睡眠状況、排泄間隔、食事の時間等の生活リズムを把握しております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は職員の気付き等を活かし会議で十分に話し合い作成しております。介護計画は利用者様一人ひとり個別的な内容となっておりモニタリングも一カ月毎に実施率を出し、柔軟に変更出来るように作成されています。	利用者や家族の意見を取りいれ、その人らしい生活が出来るように努めている。利用者毎、担当者制により各職員が介護計画を作成している。それを基にケア会議で再度、十分に話し合いをしている。毎月モニタリングを行い、実施率を出し、サービス向上に繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施率表を作成し、実践の際の職員の気付きやアイデア等記録しそれを基に職員間で情報を共有しながら介護計画や日々のケアに反映しております。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様がよりよく暮らし続けられるように地域のボランティアや訪問、図書館等の利用も含め暮らしを楽しんで頂けるように支援しております。また、安全な暮らしを継続していくため消防署や地域の消防団との協力も出ております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り利用者様やご家族様の望む医療機関での受診支援を行っており、受診結果等は毎月ご家族様に伝達しご本人の状況を共有することが出来ております。	入居時に受診状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関での受診が出来るように支援している。受診時には職員が付き添い、生活の様子や心身の状況を報告して医療機関と情報交換している。また、認知症専門医の往診を受けることもできる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を結んでいる医療機関の看護師とご本人様の状態を共有し指示を受けたり、相談することで適切な医療を受けられるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を行い、早期退院に向けての体制が整えられております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について事業所でできる事をご家族や関係者に十分説明し、急変時の対応等についてご家族様や医療機関と話し合いを行っております。	入居時にホームの方針について、利用者・家族に説明している。状態変化や急変時には家族との連絡を密に対応している。重度化や終末期の対応については、医療機関への依頼等、終末期ケアの受け入れ先への移動支援をホームの方針としている。	

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間や日中も含め緊急対応マニュアルが作成されており、職員は救命救急講習を定期的に受講することで実践力を身につけております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間も含めた避難訓練を実施し適切な避難誘導ができるよう訓練をしています。災害の発生について消防署や地域の消防団、民生委員にご理解とご協力が得られるように働きかけを行っております。	消防署や地域消防団、民生委員等の協力を得ながら避難訓練を行い、夜間を想定した避難訓練も定期的の実施している。各居室の壁に簡易式のライトが設置され、避難誘導の際に職員が確認できるよう工夫がされている。また、災害時の備えとして飲料水や缶詰等備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に羞恥心や自尊心等に配慮した声掛けを行っており一人ひとりの尊厳やプライバシーを損ねないよう意識しケアしております。また、声掛けや対応について職員間で十分に検討し改善に向けた取り組みを行っております。	職員会議や研修会で個人情報についての理解を深めたり、マニュアルを確認してプライバシーに配慮したケアを実践している。管理者は職員の言葉遣いや態度に留意しながら利用者と接するよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	積極的に自己決定を促す場面を作り、またはいくつかの選択肢を設け利用者様に選んで頂ける場面作りを行っております。思いや意向を意思表示することが難しい方には表情やその時の態度等から把握するよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位に訴えを後回しにしたり、無理に急がせたりすることなく、あくまでも利用者本位に物事を考慮し出来る限りご希望に沿った形で柔軟に対応しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人にとっての馴染みの床屋等に出掛けられるように支援しております。また、一人ひとりの身だしなみ等に対するこだわりを理解・把握し、対応しております。		

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの嗜好を把握しそれに配慮した柔軟な献立の調整を行っており、食事の際は職員も一緒に席でコミュニケーションを取りながら楽しんで頂けるように努めております。	外部の管理栄養士が立てた献立を基に食材を仕入れ、職員が調理している。食事の配膳や後片付け、食器洗い等利用者ができる事は職員と共に行い、食事の際は職員が利用者の思い出話を語りかけ、共に楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が考えバランスのとれた食事となっており、いつでも相談できる体制が整っていて状態に応じた栄養・水分量が確保できております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの必要性について認識しており、特に寝る前は必ず実施しております。また、医療機関と連携し口腔機能改善計画に基づいた嚥下体操や効果的な口腔ケアについて指導・助言を頂ける体制が整っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は排泄の自立についてQOLの向上につながる事を念頭に置き利用者一人ひとりの排泄パターン把握し排泄の自立に向けて支援しています。失敗に対しては自尊心や羞恥心に配慮し速やかに対応しております。	排泄チェック表により利用者個々の記録を整備し、排泄パターンの把握に努めている。利用者のタイミングを見計らい、事前に誘導する等排泄の自立に向けた支援をしている。失禁した時は利用者のそばで静かに声かけし、羞恥心やプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立やそれ以外でも繊維質の多い食物を加えたり、水分摂取と適度な運動を促し出来る限り下剤に頼らず自然な形で排便出来るように取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの入浴習慣を把握し対応しており、ご本人の希望に応じ入浴方法等について職員全員で検討しております。	入浴は週2回を基準に利用者の希望を取り入れ、羞恥心や負担感を配慮して同性の介助を基本とし、柔軟に対応している。また、利用者の希望があれば周辺の温泉に職員と出掛け、コミュニケーションを図る良い機会にもなっている。	

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、生活リズムを整え気持ちよく眠りにつけるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの内服薬について理解しており、変更があった場合は全職員で確認しています。誤薬を防ぐための具体的な取り組みを行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの生活歴を把握し役割をもって頂けるように個別的な支援を行っております。屋外の散策やドライブ等気分転換して頂けるように努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の気分転換の為日常的に外出できる機会を設け地域の行事等へ参加しております。	南部祭りや名川祭り、散歩、買い物等、外出の機会を多く設け、利用者の気分転換に繋げている。さらに予定に無くても利用者の希望を聞き入れ、急遽、ドライブや温泉に出掛ける等、柔軟に対応している。また、利用者の身体状況に合わせて、ホームのリフトつき車輦を利用し、外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様自らお金を管理し、使うことの重要性を理解し出来る限りご本人の希望に沿ってお金を所持していけるように支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をかけたりする際にはそれを支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度等）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は声のトーンや足音等不快な音にならないように配慮しています。共用スペースは装飾を行い季節感を取り入れ、居心地良く過ごして頂けるような工夫を行っております。	ホールは天窓から自然光が入り広く、食卓やソファでゆっくり過ごす事ができる。大きな窓からは車や通行人の動きが見ることができ、一日の流れを感じることができる。行事写真を大きく加工して張り出したり、クリスマスツリーを設置する等、季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士、またはご家族様と一緒に団らん出来るスペースがあり、思い思いに過ごして頂けるような居場所を提供しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時使用していた茶碗や湯飲み等、ご本人にとって馴染みのある物を持ってきたりするように働きかけを行っております。	居室は自由に使える旨を伝え、愛用品の持込みを促し、仏壇やこたつ、写真や作品等が飾られている。身体状況や生活習慣に配慮し、布団を敷いて起居したり、一人ひとりが居心地よく過ごすことができる居室になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は利用者様が安全に過ごして頂くために危険を排除し、環境面におけるアセスメントを行っております。また、要望があった場合は環境改善を行う体制が整えられております。		